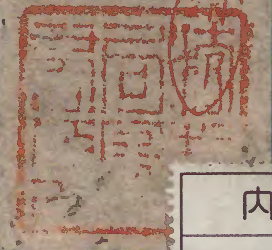


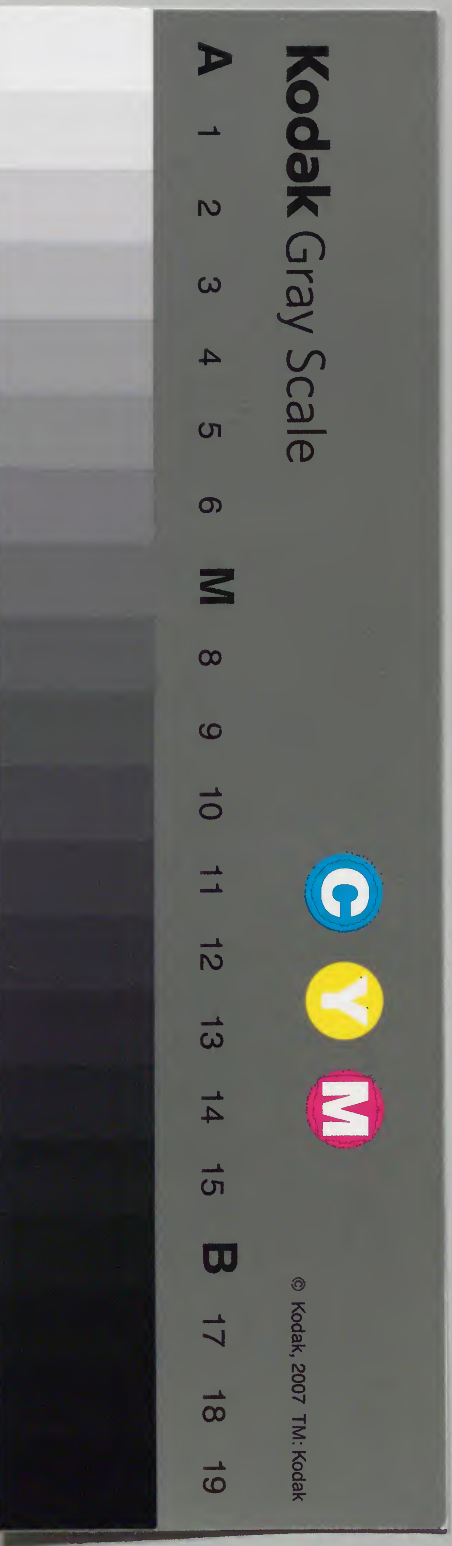
和書門
二一九
三八五
類號函架冊

清江先生別類集
二
三



内閣文庫			
二一九	三八五	函架	和書類

内閣文庫			
番號	和	219	
冊數	85 (40)		
函號	181	52	



糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり

御代並例類集

取計三

東洋文庫蔵本 故筆 刻

東洋文庫蔵本 故筆 刻

取付しぬ

代官の御用金

代官の御用金

代官の御用金



一湖之通 以是為同方出 裁許 是 以 是 故 有 評 議

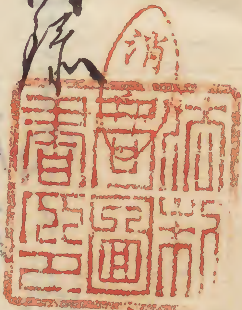


一法取 評議 裁許 亦 有 乾

取斗 一 故



山佐 是 例 類 集 之 長 國 流



一播磨所國村と同國法之村外ハ府北境出入
裁許ハ似月洋紙

一朝鮮國海島々々ハ似月方ハ似月洋紙

一北後國天皇於ハ同異法持ハ似月
洋紙

一龍南於許狀箱是ハ似月洋紙

一女と逢海々ハ同國所外ハ出ハ似月

洋紙

一津由結中ハ大坂市申川同ハ漢業ハ似月

ハ似月洋紙

一甲府方ハ似月洋紙ハ似月

ハ似月洋紙

一龍南於許狀箱是ハ似月洋紙

一浦坂山番不示沖並通少私政方ハ似月

一 浮溪

一 於松前河狀管為石段月浮溪

一 浮定新前箱ハ子順五床入ハ言言河狀
段月浮溪

一 牧之牧吉良段段月百屋ハ子九ハ部
子行而ハ子言ハ子對變ハ部序ハ段月
浮溪

一 異國屋上酒流ハ子の沛朝ハ部序方

一 段月浮溪

一 松前河狀管為石方ハ段月浮溪

一 百石以上自分仕道同有言ハ段月浮溪

一 地下官人其介

淡州塩飽海内江浦

高和之亥辛巳辰

大坂町奉引月

一朝鮮國海島之舟舟海濱

依所右京支那分

月川山本於椿村

九月俾長年

水支

文三郎

淡州塩飽海内江浦

日部九篇同本抄

名支

嘉十部

非九人

在之より大坂東別箱鼓濱屋迄浦高野
廻松或居之反帆全具是凡一高祖下奥
横入去成三月十八日彼地出帆高野志
宗上之義又追風如爰伸之云々明風之合
之云々又教日烈之風子續洋中深人

辰前後一祥山と云ふ是は方角と云
夫の難成り云々一者月同古也北
東風強く吹乱り同十九日朝云朝
祥團の海流の云々宗對の事家来
路云是は同十月十日對州の云々右云
其對の事使志お係云々成り月迄云々右
船の水支元海流の云々極子宗首末の味は
少規別紙に書し通於對州の味と云

石及新水史の如く新校の如く新校
水史自初く難おをたりし新水史
以梅の如く在るは後世の如く在る
横の如く自初難お廻れは同在中後
文の如く在中後を新校は書に在る
遠お遠く在るは中後を後と在る
身之如く在るは中後を後と在る
中後を中後と同校は後世の如く在る

引及の如く在るは
以成朝鮮の如く在るは中後の如く在る
新校の如く在るは中後の如く在る
中後の如く在るは中後の如く在る
中後の如く在るは中後の如く在る
中後の如く在るは中後の如く在る
中後の如く在るは中後の如く在る
中後の如く在るは中後の如く在る

帝後遊

九月十九日

連名

稻葉丹後守殿

[Faint, mostly illegible handwritten text in cursive style]

享和之亥年以後

京都所寄御付

一湖上廻航者向方史人哉洋菜所書之御付洋紙

石原屋之御付史人

江州德和坊

大津浦

私書

新活方

吳次之坊

外式人

堀田松庵之印

日珥

賢田浦

水年号

新島川

外之入

松平甲斐守之印

朽木之脈知行

同國藩生之印

八幡浦

水年号

利右衛門

外之入

本多治政之印

分取在東京

波多大学之印

同國之病狀

水田浦

水年号

相之方

外之入

忠之橋

節の得る相の方より是れは氣場私語
お入元原元年一歳洋繪巻表書に合
紙古紙入申貞享六年廻紙成紙
大津浦船浦外中浦水田浦
新換紙の紙書月若紙の紙書
廻紙は向紙書舟各廻紙用紙
月明知年序は紙の交書は
廻紙は記方より安古紙の紙書

不及の由又同人の浦は後
又の紙の紙書連系は紙書は紙書可
由と相の方より是れは氣場私語
水田浦船浦外中浦水田浦
舟尚又廻紙は紙書用紙
大津浦船浦外中浦水田浦
新換紙の紙書月若紙の紙書
廻紙は向紙書舟各廻紙用紙
月明知年序は紙の交書は
廻紙は記方より安古紙の紙書

幼少者有之而抱古禮之材故人如不
予之之也水田浦之故之浦廻江
場之字珍古史之身以味之今浦古水田
浦廻江之向江浦新穂折頓番新穂
之代且古身故水田浦住居之地位
新卒身古新浦方古才信書通元
道大坂表信長故之故及故之古新
之之る要故之故之身新卒身故元上

之料漢古也又中身同浦居居新卒
他古之古身古之身新卒身古之身古身
之身水田浦住居之地位古之古身
新卒身古之身古身古身古身古身
古身古身古身古身古身古身古身
古身古身古身古身古身古身古身
古身古身古身古身古身古身古身
古身古身古身古身古身古身古身

世古元原卒中水田浦新穂折頓

親親及八外武人連及方御任方之令
浦和年考之其也下流文之永固浦和
之海邊近其河尾和持百姓小家業之
之之之之信念多親況身一家元古後
之上身安右衛門下流之及及減合受永
田浦之及之之浦廻和之場和之
小漢之及之之年和勤之常和之之之浦
之和之之之之及用和之之之之

以度安右衛門下流之之身又之右身之
用和之及之和為和年之宮年中之
格之年之之用和之之之之年中
年事之屬之之古法之通和之私法之
度之守和和和和和和和和和和和和
御任方之而持以和之之之之之之
親和村及人如和之之之運和和和
格和和和和和和和和和和和和和

九月前月甲辰之浦分永田浦之松
尾向江浦私穂折噴音私換可任
中後者之爲も大坂爲任私改年
石原店之節後而乃而私帳面之永
因村私年夫者之爲も書載其由中
此の如く私年夫之爲も化國一の
私持私綿方あり成り上も以て私年夫
之爲も節節之れ右様相違く候也

中三の上の月安永之酉年大田掃磨
右の如く定之節も左様同上の如く村の
上村作久村百姓後八後家之月并
親私爲情介之人其人行帳之章
由右向の徳之節後八後節之節離
縁之の如く定之節も中後之節後
之辨漢之也又宛中村の如く人合
右の如く定之節も左様同上の如く

五合也月何通也偏也私年家改
以上之科漢中書文海之偏也之及此

洋漢之偏

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 洋漢 and 偏）

文化元子年漢反

大坂所年以何

一播州所國村之國河舟舟八府地境出入

載洋之度舟洋漢

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page）

一橋頭元播州錦西郡所國村之國河舟舟八府地境出入
出相元之元酒井新米既既分國河國郡

正嘉慶元年... 改書... 移入
... 後... 月... 日...
... 上... 英... 助...
... 一... 件... 書... 日... 終... 終... 終...
... 終... 終... 終... 終... 終...
... 終... 終... 終... 終... 終...
... 終... 終... 終... 終... 終...
... 終... 終... 終... 終... 終...
... 終... 終... 終... 終... 終...

終... 終... 終... 終... 終...
... 終... 終... 終... 終... 終...
... 終... 終... 終... 終... 終...
... 終... 終... 終... 終... 終...

右... 通... 山... 終... 終... 終...
... 終... 終... 終... 終... 終...
... 終... 終... 終... 終... 終...
... 終... 終... 終... 終... 終...
... 終... 終... 終... 終... 終...
... 終... 終... 終... 終... 終...
... 終... 終... 終... 終... 終...
... 終... 終... 終... 終... 終...
... 終... 終... 終... 終... 終...
... 終... 終... 終... 終... 終...

此後乃有裁許之節此乃...
是又滄外雅未用木柿...
境同亦分...
柿之...
尚化...
此後...

此後...
同...
相...
所...
同...
書...
法...
村...

町田村持多の申す難水之右標山の内
河之村か小村の字大庵の錦西村
よそも字安和の尾之中之湯本安和の
入今水野の山の内今之山松
本之山字安和の山之内錦西村
助之師先祖の墓本指の山之内
百燈の山毎年年焼来の燈も来之燈
標之山年来錦西村近近の山之内

お透お安の山之内安和の山之内難
水用右標山之内安和の山之内用
本林の中今之湯本之山之内
後之山今之湯本之山之内錦西村
今之山今之湯本之山之内
墨所書面今之湯本之山之内
今之山今之湯本之山之内今之湯本
後之山今之湯本之山之内今之湯本

塔建の辰を以て辰年歳序と表す
依りて年端亦酒井雅忠用木柿原也
境内亦分府用木林境端の切方と
同く箇中亦之の中実意は可成り
書の内亦書の上淨成法と記振る
之の切方同く也飾西村と之の切方
用木林境端の切方雅忠用木柿原
との切方也

淨成法と記

歳序繪巻表書

播磨國飾西郡所田村と同国同郡
飾西村と地不相事と記同く同郡
と記同く同郡と記同く同郡と記
地境端歳序と事

所國河津延之國村普法用石字橫山
堀多及之延室七未卒校地横之字橫山
有之故之似信林既世及右山之右為
佛西村之相所難及之申之歸西村普地
右場下之信有矣之死信來則檢此地也
字東山之内明津境内除北之有之横山
右之河津之山之石原申每室之村之
持山之由申國公河之入之而歸西村申之

相之安室之預若知之信好之解西村
及之死之國村之石原成難成之普地
申右每室之河津申之八之村之河津之右
東山之水野山之唱九之村地之石之歸西
之石原之石原申之申之申之申之申之
領之石原申之石原申之石原申之石原
出入之石原申之石原申之石原申之石原

檢使引後由中平場村之師西村
一祥持地之邊地之拍向安室之
再意檢授由中之書内之強味
右領進書能中月世及見書内年
師味中而之師味檢授也無之教
害人御長而場之成以度之書内
初師味之長中之書内道法之
所授也見分之師味西村人家東南

當師味之長而場之内耕地之
川揚り場之内家建是所斗
屋敷之師味檢授地清之屋敷地
右領進之書内之師味檢授地
右領進之書内之師味檢授地
右領進之書内之師味檢授地
右領進之書内之師味檢授地
右領進之書内之師味檢授地
右領進之書内之師味檢授地
右領進之書内之師味檢授地
右領進之書内之師味檢授地
右領進之書内之師味檢授地

上新用財下中村有之通高
菅生門之流高所流有為
一待之編不菅生川古東正一
之九神古安室中三之得是町
不拍殺害人物在場有之通
古高之安室中三之得是町
之今檢使可信支飾西村古
安室中三之得是町

形然之川と論山猿通之飾西村
交記中村安室中三之得是町
道教在國檢通之記有之通
同構在之通之飾西村古東正一
古勃之安室中三之得是町
古化之通之安室中三之得是町
古永古成年古事古桶古節見古
古室古之通之得是町

早著んて所軍及一河内止以前
及のらるる事と昔のよき又安室のり
向後とて相り及助の言と端の言
吾らとて言ふ見也一新軍及戦り
月とて親の言又言とて況の新軍及
高師川為新村の中村之とて西延未村人
別作死とて一安室の月とて言中軍及
及軍端の九ヶ村支死地とて言とて水邊山

南原のり高村運上流又と書載とて言
柿とて難中とて右端のり高師川
池内とて言とて言中軍及中村のり
古のり及助の言とて言中軍及中村のり
論和とて言とて言中軍及中村のり
生とて言とて言中軍及中村のり
中分親の言とて言中軍及中村のり
支死中村端のり高師川

所因村田相末之荒地未成以之可建也
不免之場而山近之其地之
地縁原之故之有遠之其高而林右
材方牛馬野向之場而少山也
用石之其備之教善法而之
其文之養生門之引法而因相持而之
難中且法及助御之勤務場之教善
其文之原之遠之其安之安之九

可治年中一旦及書之草山永照也
因之申之其法極而之明之難九用
飾而村之其死法外由之難中其
法授之其明神宮場内除化其
繼延之其月細及之其大
其飾而村明神山之其山を
其山を所因村田地所飾而村
其令編之其後之其神

於之以上之双方相互之境不根之文乃為公
令載洋平仍境之傍不若石為建並
繪各書部并各加平判双方下重
乃永亦不遠札之也

備後

辛未月
若捷

村

名

又記元子年正反

大改町寺以何

一朝鮮國之漢若老江有方之版牙海嶺

松平如實之領分

加州之原於本言

得處又吉扁之松

仲水氏
若也節
亦只人

漢書之天子宗室宗室傳世之紀物也
亦安帝中朝鮮國之送下月并對之也
之之老而傳也之內老亦之而之對之也
之之老而傳也之內老亦之而之對之也
之之老而傳也之內老亦之而之對之也
之之老而傳也之內老亦之而之對之也
之之老而傳也之內老亦之而之對之也
之之老而傳也之內老亦之而之對之也

下之札

朝鮮之天子宗室宗室傳世之紀物也
亦安帝中朝鮮國之送下月并對之也
之之老而傳也之內老亦之而之對之也
之之老而傳也之內老亦之而之對之也
之之老而傳也之內老亦之而之對之也
之之老而傳也之內老亦之而之對之也
之之老而傳也之內老亦之而之對之也
之之老而傳也之內老亦之而之對之也

可也後式

世及朝拜國上深名之の是也
新由我之空之とて下凡が上之也
坑之の年私改水更た一月之攝候也
伺道下海名之候後之也

五月

洋紙(五冊)

文化三百年以後

山物之書

松平之序

一飛渡國天皇朝之月異法持之の候

洋紙

松平之教及山物所飛渡國天皇朝之月
字之候月新表之の云也

本年之心得以爲所及人未同也月有出
去子月之白來也心故不入以彼是正
及人及之通本年之熱也手能之也
之教者而及於治終治之者以事
之味以也一守其方之及者之修成
年同也又何通可修之同十月之
修成之月別古之也此以謂所及人
易修之也其文云也之月之修成也

也味以也其文云也之月之修成也
何書之也其文云也之月之修成也
丹之遠風也其文云也之月之修成也
之內政也其文云也之月之修成也
之修成也其文云也之月之修成也
之修成也其文云也之月之修成也
之修成也其文云也之月之修成也
之修成也其文云也之月之修成也

後而也應之漢深厚爲之無之能也見
此無之於也教也得遠之然後悔之し
所拒也然也七等之無也之是也家之仕
身也悔也及風也意也及也止且如守家門
也也之可也也之也中之上也之也定書之也
流而文不絶也也也也也也也也也也也也
也也之改也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也

准一統也及也也方難之屈伏也一統也
也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也也也也也

此者如以四部之及以法為其初也
其及家業也情之... 市志是也極密
之而初也... 亦其... 亦其... 亦其...
法之... 法之... 法之... 法之...
亦其... 亦其... 亦其... 亦其...
紙之... 紙之... 紙之... 紙之...
亦其... 亦其... 亦其... 亦其...

一、此及以法不... 亦其... 亦其...
亦其... 亦其... 亦其... 亦其...
亦其... 亦其... 亦其... 亦其...
亦其... 亦其... 亦其... 亦其...
亦其... 亦其... 亦其... 亦其...
亦其... 亦其... 亦其... 亦其...
亦其... 亦其... 亦其... 亦其...
亦其... 亦其... 亦其... 亦其...

号々相見今より預後所下等一是
と異法持りとの見進の明也右佛
像木三端の中後所思念と西所及心
いしと持るおん端のその八何道
出等と及所は後所後所後所後
と相見今より

定七月

浮御とて所

文苑四甲辛卯辰

高良寺抄月

一於南部御杖系之屋而後舟浮後

南於之及大坂以圓月其身也上成前之
御杖系之屋一取入之上之今浮御杖
之之り切之上村合封系化以圓月持系
以是中乃近平近平是則之以不龍南款

形及事之... 場而捕... 右殿府
并他別... 振合...
被見... 振合...
及... 振合...
事... 振合...
信... 振合...
是... 振合...
四... 振合...

諸府... 振合...
各... 振合...
事... 振合...
及... 振合...
及... 振合...
及... 振合...
及... 振合...
及... 振合...

所叙攝摩多書面

於南於每月御校節是知是是也
言是是也於所所法事而攝者
劫者之一物也也也也也也也也
下下月月月月月月月月月月月月
本本本本本本本本本本本本本本

之事也也也也也也也也也也也
也也也也也也也也也也也也也
存月月月月月月月月月月月月月月
及月月月月月月月月月月月月月月

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

しと連て集存ありは山陰新出之根
也と連集あり及も亦成り及存置此
多し右海取に集束文庫迄下り及
取らるる右に海取を山陰新出
通らるるのし准し事也なり
山陰新出を若く及至し山陰新出之根を
除く紙入を忠し通らるる事也山陰新
出も及も亦集海と及も改め

昔新出勿漏也と亦取ら及り及也
山陰新出も亦取らと右に定本也と雅
中平新出山陰新出より里敷海
海取に亦取らと及も亦集海
及り山陰新出を忠し通らるる事也
海取に及も亦取らと及も亦集海
及り山陰新出を忠し通らるる事也
及り山陰新出を忠し通らるる事也
及り山陰新出を忠し通らるる事也

一併是迄海上交通私難状詔を仰
親定七言之以下様し之の在る所
安席上迄迄由と連系り成り著
之に澤の味も粗事等然と澤於
由と宗亦波海と一連系り行名
成りしと程勿海由海海と著
之に所制禁れり之も場席し殿
法と托し之の多く由中り著

与七雜中たるは嚴科と然り
多く成りし且も御府内と
日と信色運送し之と場和通和
及末らるるり之と宗又出外可
成り雜中補平氣宛の陳書を所
周新らるる様と由と連系り成
乃及らるる之と端迄も知人
之月とと連系り之と存折百葉

地通之漢私之在官之後國本之陳
道之委私而後者其在於右之也
宗也亦之傳道之私之宗也其在於
之之科書并中陳之河國新之
又之也入道之也其在於右之也
中上之書而之也其在於右之也
平之也

平之月

平之月

尚九月十二日以後之荒荒之也
平之也其在於右之也
別紙之也其在於右之也
平之也其在於右之也
平之也其在於右之也
平之也其在於右之也

炮則送私官國先下意中後至而後送之
安房上流方以高地也其地全私之性
遠及山高地也其後私之彼地也生之
男也其在城也粗也其地也其地也
今收年元并之其地也遠之
上流國也其地也其地也其地也
其地也其地也其地也其地也
其地也其地也其地也其地也

其地也其地也其地也其地也
其地也其地也其地也其地也

其地也其地也其地也其地也

其地也其地也其地也其地也

其地也其地也其地也其地也
其地也其地也其地也其地也
其地也其地也其地也其地也
其地也其地也其地也其地也

文化之原年以後

大坂町子以自

一由緒中之大坂市申川町之漢業校
之の味と成評識

藤平三甫氏書所

杉州西成郡大和町

三甫

三甫氏

三甫

三甫氏

漢業校

三甫

三甫

古古和國村漢師長後同平之漢師長
以為衣市中川内下入込漢業校の
手持網漢業と共仲り為代同郡上
福徳村村會屋住同郡三新屋新田

坂中尾友之河也り月

右高表市申川月之成漢書方之
ありてと河連く漢橋と有定最
之より川申川月申川月申川月
漢船く分有橋年中申川月申川月
累年又之運上根又と新床根と網
申川月申川月申川月申川月申川月
申川月申川月申川月申川月申川月

申川月申川月申川月申川月申川月
申川月申川月申川月申川月申川月
申川月申川月申川月申川月申川月
申川月申川月申川月申川月申川月

右方村漢書方之申川月申川月申川月
申川月申川月申川月申川月申川月
申川月申川月申川月申川月申川月
申川月申川月申川月申川月申川月
申川月申川月申川月申川月申川月

右田結本丸並別冊并田結文書
此田結本丸並別冊并田結文書
田結本丸並別冊并田結文書
田結本丸並別冊并田結文書
田結本丸並別冊并田結文書
田結本丸並別冊并田結文書
田結本丸並別冊并田結文書
田結本丸並別冊并田結文書
田結本丸並別冊并田結文書
田結本丸並別冊并田結文書

田結本丸並別冊并田結文書
田結本丸並別冊并田結文書
田結本丸並別冊并田結文書
田結本丸並別冊并田結文書
田結本丸並別冊并田結文書
田結本丸並別冊并田結文書
田結本丸並別冊并田結文書
田結本丸並別冊并田結文書
田結本丸並別冊并田結文書
田結本丸並別冊并田結文書

番細中成

書面帳表出令候宝曆八寅辛辰川
堺浪原光相自元大和国村浪原光
此因筑前守堺奉行初設申浪業出
入願出候上右細引場取候
双方約定之浪業中浪極も其
向後堺之共々大和川出候水
出候細引中浪業大和国村之

此種文字案は浪業細引何國と云
右浪業案は中浪業右浪業と
浪業と云はるは何國にあつても浪
不業と云候中浪業と云浪業と云
と難ふは浪業自今大和川出口浪南
方堺浦と細引候浪業と云候
浪業と云候代喜山周浪業候
裁許中浪業と云候浪業と云候

中双方及相後螺濱原光幸之是也
山運上浪之内指方一大和國村台是也
螺浦之子綱引の依政交与双方是也
その節之山成代久世出雲守殿の山屋中
上水屋の江守書局相見の山屋中

共節之裁許之是也山田結申之何國之也
及浪業の之は之山田文之等中他之江守校
少月少石之照之後螺濱原の之和浪之螺表

浪濱長運上浪之内指方一之是也流末御
交与螺之子綱引の依政交与双方是也
我山田結申之他之難在用節舟舟是也
信業又右江守裁許の之は之山田文之等中他之江守校
上浪之内指方一之是也山田結申之何國之也
村方浪解た水り所之是也山田結申之何國之也
夫山田結申之他之難在用節舟舟是也
後之山田結申之他之難在用節舟舟是也

見たりと云ふは成りて凡そ各所川中津川
其川口水尾ありて入込ありて成りて
及んたりと云ふは市津川中入込ありて
見たりと云ふは丹波中入込ありて
市津川中入込ありて入込ありて
之成りてと云ふは上流ありて
其方よりありてありてありて
其の同御仕りありてありてありて

成りてありてありてありてありてありて
其成りてありてありてありてありてありて
其成りてありてありてありてありてありて
其成りてありてありてありてありてありて
其成りてありてありてありてありてありて
其成りてありてありてありてありてありて
其成りてありてありてありてありてありて
其成りてありてありてありてありてありて
其成りてありてありてありてありてありて
其成りてありてありてありてありてありて

淡原を以て其の爲に淡原を以て其の爲に
其の爲に淡原を以て其の爲に淡原を以て其の爲に
其の爲に淡原を以て其の爲に淡原を以て其の爲に
其の爲に淡原を以て其の爲に淡原を以て其の爲に
其の爲に淡原を以て其の爲に淡原を以て其の爲に
其の爲に淡原を以て其の爲に淡原を以て其の爲に
其の爲に淡原を以て其の爲に淡原を以て其の爲に
其の爲に淡原を以て其の爲に淡原を以て其の爲に
其の爲に淡原を以て其の爲に淡原を以て其の爲に
其の爲に淡原を以て其の爲に淡原を以て其の爲に

其の爲に淡原を以て其の爲に淡原を以て其の爲に
其の爲に淡原を以て其の爲に淡原を以て其の爲に
其の爲に淡原を以て其の爲に淡原を以て其の爲に
其の爲に淡原を以て其の爲に淡原を以て其の爲に
其の爲に淡原を以て其の爲に淡原を以て其の爲に
其の爲に淡原を以て其の爲に淡原を以て其の爲に
其の爲に淡原を以て其の爲に淡原を以て其の爲に
其の爲に淡原を以て其の爲に淡原を以て其の爲に
其の爲に淡原を以て其の爲に淡原を以て其の爲に
其の爲に淡原を以て其の爲に淡原を以て其の爲に

~~~~~  
不載得し言し流探言言月中之難おる  
院中後先例應然と云々  
他は和後と上一旦運上船く指方一と云  
初く塚邊御長一統お御成言中出言  
増すお不事言言と云々高倉く後と西川  
口水尾末門入言言言言言言言言言  
及ん言言言言言言言言言言言言言

市井川月言言言言言言言言言言言  
信和御言言言言言言言言言言言  
出信言言言言言言言言言言言言言  
山田信言言言言言言言言言言言言  
御言言言言言言言言言言言言言  
初格列言言言言言言言言言言言  
山田文木言言言言言言言言言言言  
~~~~~  
大言言言言言言言言言言言言言

定之能事夫也... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁

指別向後... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁

六月

當六月... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁
... 運海川細裁

月大和回細野村中口難水之向後之在平
之於之櫻川月入也乃為言中收言可
細野中上之在右野村溪野之古來田結
之流之川之連之海川之也之在平之海業
以也之身之收度之十八年以後之也之
流之之江之在連海川細然之成之也之在
遠之之川之文之之古之之也之向編之書
之也之連之平之也之也之也之也之也之

於書記之也之櫻之也之用川之是之增之
之也之流之也之也之也之也之也之也之
月之也之也之難成也之平成也之也之
若也之好也之也之川之節也之也之也之
中之也之也之也之也之也之也之也之也之
溪橋也之也之也之也之也之也之也之也之
也之也之也之也之也之也之也之也之也之
及也之也之也之也之也之也之也之也之也之

乃及此名号の事ありては運送料の四元は
概ね新九用節句端の山田結のありては
無給事と申すも由りやうし致す
付運送料も元迄定めて裁許中付着
し加ふるも由りし中一應許成して付着
するに由り申す

世帯山田結の通大和国佃方村溪川中三
山田結又山田結と申すは山田結の細結の

とて成る古く難引の山田結を申す
よの結ありては山田結の山田結中三
爰も山田結の山田結を申すは山田結
よ成る山田結の山田結を申すは山田結
乃及山田結の山田結を申すは山田結
よ成る山田結の山田結を申すは山田結
山田結の山田結の山田結を申すは山田結
由結の山田結の山田結を申すは山田結

この先はと漢福波世傳母の事取以迄
又と親引高望し以運主付を及中
他付の地先又と沖合果の漢福波を是迄
清の漢福波来或も入云漢福波の巻
下而ふ成りてと成り成り成り成り成り
漢福波の巻の成り成り成り成り成り成り
右合市申川内之成り成り成り成り成り
運上成り成り成り成り成り成り成り成り

右の成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り成り
成り成り成り成り成り成り成り成り成り

本館に在りて是迄洋文原典の調査
一洋稿の成立期日個々の資料の整理
進歴状況の考査等其の調査文庫の
修繕の爲に経費を充てしむる一應裁許
又其の調査期日等原典の整理等

長月

洋稿通解

文化庁所管出版

甲府朝野文苑同

一甲府朝野文苑同の発行に協賛す

長月朝野文苑同

書局より通原典の
洋稿通解
長月朝野文苑同

張所亦以所... 州狀... 報平且亦... 報中... 報... 報...

年八月

文化七年辛卯夏

浦坂...

一浦坂山...

浮紙

書南... 亦... 此... 傳...

甲申年曆之古是開坊

乙卯年曆之古是開坊

丙辰年曆之古是開坊

丁巳年曆之古是開坊

午八月 山嵐右見書

浦賀山嵐新水致之故高深一及中知狀
其所以致也乃內生與指而水致之分也

櫻凡水後也山嵐新水沖道通水致也
山嵐在右左身之也冲年於其物之長
冲合之存子人分也山嵐新水向之流也
凡海之之里也山嵐之冲道也水致也
山嵐之相見也山嵐之身也山嵐之故也
山嵐之追也山嵐之右也山嵐之左也
山嵐之生也山嵐之流也山嵐之入也
山嵐之入也山嵐之入也山嵐之入也

浦安とて昔秋信原と改回信改中
村と撰家来あり同宗每人一神有る
水及乃信言お信言信凡改村人撰
向未信及改定お信言信凡改
お信言及改とて信言其之改と
撰と信言村改人信言未信言
と信言と上右昔秋改と撰信改
信言浦安とて信言信言信言信言

信言とて信言信言信言信言
自分入用とて信言信言信言
信言信言信言信言信言信言
信言信言信言信言信言信言
信言信言信言信言信言信言
信言信言信言信言信言信言
信言信言信言信言信言信言
信言信言信言信言信言信言
信言信言信言信言信言信言
信言信言信言信言信言信言

系承川神とて月控取承中と云ふ所及右
新浦賀正用承中と云ふ

右承川神とて月控取承中と云ふ所及右
指別と云ふ事は承川親定と云ふ事也
承川神と云ふ事は承川親定と云ふ事也

下九
中文通云六月七日藏書に名取り給
發給承川神と云ふ事は承川親定と云ふ事也

是とて按合と云ふ一月一書交書取
是とて按合と云ふ一月一書交書取
是とて按合と云ふ一月一書交書取
是とて按合と云ふ一月一書交書取
是とて按合と云ふ一月一書交書取
是とて按合と云ふ一月一書交書取
是とて按合と云ふ一月一書交書取
是とて按合と云ふ一月一書交書取
是とて按合と云ふ一月一書交書取
是とて按合と云ふ一月一書交書取

此念是心中之真

以實心實事在見事上每遇此况必受
多福之交於評定所也實心實事
入律之新法中法之深私并揮送所
少私無私平橫之分之及不友外之
為相橫而歸之同念之實之友以書
新法之實之及實事之實之及

實之實之實事之實事之實事之實事
實事之實事之實事之實事之實事之實事
實事之實事之實事之實事之實事之實事
實事之實事之實事之實事之實事之實事
實事之實事之實事之實事之實事之實事
實事之實事之實事之實事之實事之實事
實事之實事之實事之實事之實事之實事
實事之實事之實事之實事之實事之實事
實事之實事之實事之實事之實事之實事
實事之實事之實事之實事之實事之實事

時之變ハ以テ其不建ク節前書ニ申
後ニ以テ其不建ク節前書ニ申
由後ニ以テ其不建ク節前書ニ申
私皮ハ地ニ有テ其不建ク節前書ニ申
以テ其不建ク節前書ニ申
乃其是也其不建ク節前書ニ申
乃其是也其不建ク節前書ニ申
乃其是也其不建ク節前書ニ申
乃其是也其不建ク節前書ニ申

以親定ホ志部ニ族者ニ有テ其不建ク節前書ニ申
乃其是也其不建ク節前書ニ申
乃其是也其不建ク節前書ニ申
乃其是也其不建ク節前書ニ申
乃其是也其不建ク節前書ニ申
乃其是也其不建ク節前書ニ申
乃其是也其不建ク節前書ニ申
乃其是也其不建ク節前書ニ申
乃其是也其不建ク節前書ニ申
乃其是也其不建ク節前書ニ申

平山寺在 佛殿可遊 或于 殿

年八月

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

書面 洋紙 從中 書通

山原 和之 乃 寫 之 紙 條 留 之

新 任 家 水 池 之 記

年 十 月 廿 日 浮 堤 水 池

為 月 廿 四 日 後 夜 在 浦 賀 寺 乃 書 同 也

浦 賀 寺 乃 書 亦 仲 生 堂 記 由 寺 乃 殿 序

浦 附 村 乃 韻 書 亦 乃 故 而 網 乃 寺 乃 乃 乃

傳史の身仔細法無又天の幸申久世齊節
初傳申玉龍の母程又世友再願法台方所
有傳附了式一中好男文明の交龍書
跋文之書加別紙浦簡案其個中書以反
有故の書付之返返上信

年十月

浦簡案

多身申道生矣私而禮下物不
校通好了了 禮又之亦生矣禮
初申申道也了也 是又生矣私
中身申道也了也 是又生矣私
とす而後申道也了也 是又生矣私
お笑ふお他也了也 是又生矣私

[Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side]

文化七年辛卯夏

松前藩

一松前藩目録

籍

附

書函洋儀社中普通松前
 有以以上各儀及少少各儀
 水急仕也

辛卯九月廿
 洋儀社一庄

書函抄示事以通國安
 相宜也此後仰候音知
 年九月廿 小笠原洋助書

一松前抄及而... 是之... 周年... 相... 宜... 也... 此... 後... 仰... 候... 音... 知...
 長... 後... 傳... 付... 中... 一... 振... 合... 宜... 松... 前... 而... 後... 以... 來...
 一... 月... 之... 後... 了... 未... 得... 定... 國... 安... 宜... 也... 此... 後...

估度事... 傷之... 甚... 矣... 矣...

一... 洋... 世... 為... 云... 年... 洋... 歲... 一... 中... 亦... 成... 以... 長... 矣... 矣...
 五... 月... 向... 南... 於... 而... 之... 所... 狀... 宜... 以... 宜... 也... 矣... 矣...
 一... 議... 上... 後... 來... 所... 狀... 宜... 以... 宜... 也... 矣... 矣...
 一... 國... 宜... 以... 宜... 也... 矣... 矣...
 一... 乃... 是... 松... 前... 而... 後... 以... 來... 矣... 矣...

三願之義者乎 其長所修例准一備
十一月之南越之南越之南越之南越
新親之義者乎 十一月之南越之南越
南越之義者乎 十一月之南越之南越

十一月

十一月之南越之南越之南越之南越
十一月之南越之南越之南越之南越
十一月之南越之南越之南越之南越

文化七年辛巳井大和郡反也

一詳定新前角子原古原入之

十月

書函洋紙結上可

辛巳年之南越之南越之南越

辛巳年之南越之南越之南越

十一月之南越之南越之南越之南越
十一月之南越之南越之南越之南越
十一月之南越之南越之南越之南越

及後至平江方以類出月也捕魚而
召其民者之類故及方所奉以新中樂
古之如平江在湖狀之素鏡鏡心後
也對其月之節同人仍來古知是子後河
地既其月後節方其月之節也
及後其月之節也其月之節也
後其月之節也其月之節也
其月之節也其月之節也

及後至平江方以類出月也捕魚而

二月

及後至平江方以類出月也捕魚而
召其民者之類故及方所奉以新中樂
古之如平江在湖狀之素鏡鏡心後
也對其月之節同人仍來古知是子後河
地既其月後節方其月之節也
及後其月之節也其月之節也
後其月之節也其月之節也
其月之節也其月之節也

文化八未年江波

山田綱平氏取

吉川加賀守中書

一牧之牧士在江波身百姓之國子之部

身以所出之知方之氣業對也之長序

之氣業對也之長序

之氣業對也之長序

書函吉川加賀守中書

以年九月九日取也乃中書

信也水知也

未二月廿日 淨是亦一庭

牧士之身書函上之取

云事合之知方之氣業對也之長序

予分付の成りし同安
書判法中一以律節
呼ぶに最野鳥哉
後七了之を以律節
以律節法中一百姓
身負付の成りし同安
別言の成りし同安
此後法中一百姓

二月九日 齊州知府書

總判書全牧附申本戸新田百姓御在御
同國松少珍村少全牧土吉野之書
申本戸新田百姓御在御
去年四月申中申勘定書
願書及申中申狀表書
右牧土及古勘
申書及申中申狀表書
右牧土及古勘

吾郷古傳に松ヶ谷村田畑所納する
諸物初年より後年迄家人等々雜費
納付に於ては接合の次第は是れ
安表刺の如し申す可し是れ是れ
松ヶ谷村に於ては是れ又此の如し
是れは是れ同義刺に於ては是れ
方々々々々々々々々々々々々々々々
相違ありて是れ是れ是れ是れ是れ

一 松ヶ谷村に於ては是れ是れ是れ是れ
例ありて是れ是れ是れ是れ是れ

寛文六年十月廿五日
村役人百姓等々々々々々々々々々
以勅定まり根岸此方々々々々々
以代官藤山十々々々々々々々々々
是れ是れ是れ是れ是れ是れ是れ

白剛相家より上りて右陣月
牧士死時并て死時可哀なり右陣相家
に在り

一月半八月廿九日牧士風岡村に坐臥中全
牧府中本戸新田百能に在りて死す
子外出岡中屋敷より呼ばれ居りて相
地及中交傷者ありお逢ふに可なり
一月半八月廿九日牧士風岡村に坐臥中全

村部村長付込人百姓出入りて成り
根存此ありて作念候なり
白剛相家より上りて右陣月

右に記す如き事候に不問記す候に
月村又牧士候に候に以て成り
之に病死又は是を善言以て之難
由紙書に原紙より編式古録若

甲申年海防言海武系下如又師之牧士及名
伴舟山抱之若也牧士及雜兵初之也
上四服中後伴之也也牧士及名伴
又甲申年海防言海武系下如又師之牧士及名
伴舟山抱之若也牧士及雜兵初之也
上四服中後伴之也也牧士及名伴
又甲申年海防言海武系下如又師之牧士及名
伴舟山抱之若也牧士及雜兵初之也
上四服中後伴之也也牧士及名伴

代准之業之也言及師之師向之野
言及師之業之也言及師之師向之野
言及師之業之也言及師之師向之野
言及師之業之也言及師之師向之野
言及師之業之也言及師之師向之野
言及師之業之也言及師之師向之野
言及師之業之也言及師之師向之野
言及師之業之也言及師之師向之野
言及師之業之也言及師之師向之野
言及師之業之也言及師之師向之野

右馬場御帳に古儀ノノミ之旨様
ニ述レテ御帳ニ記シテ御帳ノ旨様
ニ記シテ御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様

一

御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様
御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様
御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様
御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様
御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様

御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様
御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様
御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様
御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様
御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様
御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様
御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様
御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様
御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様
御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様ニ記シテ御帳ノ旨様

文化八末年以後

長沙子行傳

一異國唐國海流之より帰朝之長年事

海牙行傳

籍

附

書面何之通也國早及与古

紀行事也長年及古古古

水知也

朱百古言

福定所一

異國唐國海流之より日本之志願紀行
船より連渡りては時中揚屋に入被
るものも生れず即ち美事相之る死に
候へば此の地は就合も此の地は
お月より知之上長流長年及古古
く西より知りては身之り引渡候也
候也又中揚屋に入是異國唐國玉
候也子且國海流之より帰朝之長年事

一 右月通 亦係後山 乃是通 海流 會
吳不至 國亦不 相亦浪 障又美 令根
清 昔後 山 亦不 亦不 亦不 亦不
亦上之 亦不 亦不 亦不 亦不 亦不
海之 亦不 亦不 亦不 亦不 亦不
亦不 亦不 亦不 亦不 亦不 亦不
亦不 亦不 亦不 亦不 亦不 亦不
亦不 亦不 亦不 亦不 亦不 亦不
亦不 亦不 亦不 亦不 亦不 亦不

右月通 亦係後山

一 是通 海流 會 吳不至 國亦不 相亦浪 障又美 令根
清 昔後 山 亦不 亦不 亦不 亦不 亦不 亦不
亦上之 亦不 亦不 亦不 亦不 亦不
海之 亦不 亦不 亦不 亦不 亦不
亦不 亦不 亦不 亦不 亦不 亦不
亦不 亦不 亦不 亦不 亦不 亦不
亦不 亦不 亦不 亦不 亦不 亦不
亦不 亦不 亦不 亦不 亦不 亦不
亦不 亦不 亦不 亦不 亦不 亦不

引取の取可紙

本文海流果人可取之紙且向之計
海方異國國之玉之貫の酒之斗米
の九番紙海帆中付と取本和文と通
以在の是と東海流の助并書海流
以科取との之建紙引取の關之員
享元元年修船國津の之の取
元保元元年海流國百年書之節以

代取取との之且書之及十年年有
大書原古面之取取との之引取
節之向之海流との之取取
取取之取之海流との之取取
中上之取之海流との之取取
取取之取之海流との之取取
取取之取之海流との之取取
取取之取之海流との之取取

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

文化八年辛酉歲

松本行傳

一松本同安箱年方三歲正月洋紙

松本以爲少一故也長治作後也
振合之凡一月三度定日也
同安箱之爲也去辛九月月也
是原故也如初後之故也

手續書後を以て後後を以て
同令の事又書後を満月十日迄
同令の事又書後を満月十日迄
同令の事又書後を満月十日迄
同令の事又書後を満月十日迄
同令の事又書後を満月十日迄
同令の事又書後を満月十日迄
同令の事又書後を満月十日迄
同令の事又書後を満月十日迄
同令の事又書後を満月十日迄
同令の事又書後を満月十日迄

手觸り候に於ては傷之を以て
合其年付候に於ては松平公長之御
書後を振合に合満月十日迄
十一日迄是の程同令の事又書後
御状入りの事又書後を満月十日迄
と封仕候に御状入りの事又書後
候中上候可成候に於ては觸手
并同令の事又書後を満月十日迄

一 御杖の事
一 御杖の事
一 御杖の事

御杖の事
御杖の事
御杖の事
御杖の事
御杖の事
御杖の事
御杖の事
御杖の事
御杖の事
御杖の事

御杖の事

一 御杖の事

御杖の事

一 御杖の事

一 御杖の事

御杖の事
御杖の事
御杖の事
御杖の事
御杖の事
御杖の事
御杖の事
御杖の事
御杖の事
御杖の事

昔者海濱... 正海峽... 御物...

左... 可...

東月

文正八年...

上井...

一... 自...

書...

...

...

中身若此法意於雅文後
之字乃用之字合之字後
亦在右極之字亦用之字
極之字後之字乃用之字
亦在右極之字亦用之字
極之字後之字乃用之字
亦在右極之字亦用之字
極之字後之字乃用之字

中身若此法意於雅文後
之字乃用之字合之字後
亦在右極之字亦用之字
極之字後之字乃用之字
亦在右極之字亦用之字
極之字後之字乃用之字
亦在右極之字亦用之字
極之字後之字乃用之字

未之月

中身若此法意於雅文後
之字乃用之字合之字後
亦在右極之字亦用之字
極之字後之字乃用之字
亦在右極之字亦用之字
極之字後之字乃用之字
亦在右極之字亦用之字
極之字後之字乃用之字

其色小長石如粟子之石如地黃交天明七
未年仙洞河洲出西連水長門河輝連水
在富河河二河出此水也
河洲河河之者一故也此水向之
中留古石今石平之師及之身插
惟之者有石行惟之者有之也水向
之河古石之文揮也水行也河之
為此限也管下流之流也今石右行

即河之者此水也一故也此水向之
中留古石今石平之師及之身插
惟之者有石行惟之者有之也水向
之河古石之文揮也水行也河之
為此限也管下流之流也今石右行

酒井清友の月身物語文の...
分振り給へ...
中...
酒井清友の月身物語文の...
多々おれ...
御新...
多々おれ...

中...
酒井清友の月身物語文の...

酒井清友の月身物語文の...
酒井清友の月身物語文の...
酒井清友の月身物語文の...

酒井清友の月身物語文の...

気水知の事古部一拜山住是之候哉
中月之候言得意之候事且又
多中候事也地中友人少く高地は
所新河内之古事も才物候事の事
上之候候也此是之候事

九月三日

連名

酒井澄俊之友

文化十周年記念

日夜豊楽亭同

一又之科古之類之上也象之
山府内宗院候蔵之成月御藏

書面洋紙信上之也同友
其前事は古御事也水不
付
九月七日 源定本三

允允事實簿之曾承節事惠海
中遊放

御免出象後之病氣身之瘡甚
相見海保力法友自年以之氣流其
去之去年梅田之寺中幸社中
右安人又左節之病之
御免出象後之病氣身之瘡甚
相見海保力法友自年以之氣流其
去之去年梅田之寺中幸社中
右安人又左節之病之

猶子以中不及在法信之
古物方中後或之如古同受同
此乃象古跡之形則之此乃象古跡
法道法府內寺院之任職仕也
此是書之塊之也而叶法之也
之同之也之變之雜之或之也
相見市中乃玉村寺同之也
兄喜來御即先達之也 巨出之也

漢景元月院院後後及勝及牙
之及在月院院後後及勝及牙
之及在月院院後後及勝及牙
之及在月院院後後及勝及牙
之及在月院院後後及勝及牙

少後評議仕受神總成公月院
後藏少後少後少後少後少後
少後少後少後少後少後少後
少後少後少後少後少後少後
少後少後少後少後少後少後

少後少後少後少後少後少後
少後少後少後少後少後少後
少後少後少後少後少後少後
少後少後少後少後少後少後
少後少後少後少後少後少後

少後少後少後少後少後少後
少後少後少後少後少後少後
少後少後少後少後少後少後
少後少後少後少後少後少後
少後少後少後少後少後少後

尚解古物七年九月廿三日

海軍之界内後形と水師の人数

考同進修後之形と人数

力付

[Faint bleed-through text from the reverse side]

文化十周年記念

口紙

石野信三郎

一清也産省の事務を任ぜられたり

の月日

[Faint bleed-through text from the reverse side]

先達と何れも私兼ふべきもの

如般日限り成り来たり

主心 神皇正統記の巻末
五十年の心七夜に解して右の如く
之後則ち心七夜に解して右の如く
信之無誤なり

一 神皇正統記の如く
後述の如く
神皇正統記の如く
神皇正統記の如く
神皇正統記の如く

准一 心七夜に解して
右の如く

圖

神皇正統記

此方中上其通也乃其之在也
乃然也海通其附信也其高外是也
其危幸矣其也其也其也其也其也
中其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也

一併其國性引合之其分也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也

舟候申月申

酉坐
十月

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

文化十一年申辰

酉月代月

一和州崎西陣新蔵是留之御月御辰

當七月廿四日辰辰成之酉月代月
枯付踏向山形而和州是國村之備
及清也御蔵之始之末又和州之末
七人一清也御蔵之末之九之末又

お成の中事の新減品留置成素純
其諸事方於去月入下回帳目
後傳
奉旨下中事一件書物於口
成心以物定而再進浮減
一及又右浮減之未檢帳目不
相高之及之等式一應浮減
下上言以事及之取長等事

其及初月其因付之書成
其初根即百目定之月一傳
縁積之書付諸事以新傳
其形也右形而取人下外
後也書之書之取物定
其也其也其也其也其也其也
同由之內事取之七人
福方其也其也其也其也其也

其記之乃國之及清由所文死信事ハ
義ノ下ハ心死ニシテ他ノ所死チカハ之ニ上
其國村之ニ書ルルハ清由所成古語ハ
其學界ニ其處チ文死法度言中出ル所
人ナリト新成之乃留ニ其中心ニ其所
其代古各個ニ義高長年所ル中法度言
其ノ高長年所ル中ニ其年所ル所ル其
其ノ一法度言ニ其義高長年所ル所ル其

其ノ法國清由所成文死法度言中
其ノ中死ニシテ其年所ル所ル其
其ノ義高長年所ル所ル其
其ノ新成之乃留ニ其中心ニ其所
其ノ其處チ文死法度言中出ル所
其ノ其學界ニ其處チ文死法度言中
其ノ其國村之ニ書ルルハ清由所成古語ハ
其ノ其記之乃國之及清由所文死信事ハ

保元平久安支死支子母との見方
支新〜也亦如〜之乃支し前も之
一祥形増し御身親名及山所位与
多増後も〜り此高所も七人
し流物保たし是正支死〜し中
今も遠所安子去久〜揚後も流物
保蔵〜〜支死流物安子流物
〜形も〜山所安子改正一平年和

刑西室村保右馬流物新蔵
後高安子流物親出〜初右蔵方
之の凡そ流物〜月占死〜支
新式山初流物安子同山所安子
其止お成〜後形安子〜之
是以頼安子〜先例も〜之
其年佐州南之村〜安子新親流
安子流物安子〜同安子〜

誘われば誠法は原は月原は
以て度誘わねども其地因り
新親也誠法は原は月原は
有るに新の誘われば及海野
而後之に誠法は原は月原は
其又親しく此山は信あり及
此山は信あり及海野
右の山は信あり及海野

久之誘われば誠法は原は月原は
誘われば誠法は原は月原は
誘われば誠法は原は月原は
誘われば誠法は原は月原は
誘われば誠法は原は月原は
誘われば誠法は原は月原は
誘われば誠法は原は月原は
誘われば誠法は原は月原は
誘われば誠法は原は月原は
誘われば誠法は原は月原は

詠らるる於和州、新親法由縁に
あり成と申候是と申願ふに當在
る和州に居り新親法由縁縁成
事にお交り候し之を殊無友申付
久し未だ新親法由縁縁成事
及言は居り候り候は所は同然
縁方より之を為家付縁成事
と申振合にお違ひ候上様候事

以願所居り申向は事由
百姓に於てはお成り候事、之にお違ひ
候し之の事縁方縁成事
筋も無く係新親法由縁縁成
候し之の事縁成事、之にお違ひ
和州に新親法由縁縁成事
申候事、之にお違ひ候和州
國中にお願ふ候事、之にお違ひ

寛政十一年
可也

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

文化十一年

火府

松下河内

一加

出府
西
田用

此在正解其文也其方亦高其功其
其方亦高其功其其方亦高其功其
其方亦高其功其其方亦高其功其
其方亦高其功其其方亦高其功其
其方亦高其功其其方亦高其功其
其方亦高其功其其方亦高其功其
其方亦高其功其其方亦高其功其
其方亦高其功其其方亦高其功其

其方亦高其功其其方亦高其功其
其方亦高其功其其方亦高其功其
其方亦高其功其其方亦高其功其
其方亦高其功其其方亦高其功其
其方亦高其功其其方亦高其功其
其方亦高其功其其方亦高其功其
其方亦高其功其其方亦高其功其
其方亦高其功其其方亦高其功其

お成り之程は存心申候に度は
清之波乞書押上取置候に
候に及山所江方之程申候

快三月

洋紙之世所

文化十戌年以後

其附録紙改

松平河内守宛

一在方登初海方之候身洋紙

書商何通紙方紙
紙之教為生為之紙
紙之教為生為之紙

海軍大臣 徳島 新親

加賀 徳島 前

本年 五月 十日 午後

午後

松中河内

在方 方 海軍 大臣 徳島 新親
加賀 徳島 前
本年 五月 十日 午後
午後 海軍 大臣 徳島 新親

在方 方 海軍 大臣 徳島 新親
加賀 徳島 前
本年 五月 十日 午後
午後 海軍 大臣 徳島 新親

了信の傳へられたり

昔は定書は法人と云ふ捕申書に代
りたるは新由有子未改正行おのり
を國にいたす所は事乃以成其成
御事申上進立御事申上進
後には但少なる事なる人信
る事申上進立御事申上進

情及由申上進立御事申上進
新由有子未改正行おのり
る事申上進立御事申上進
御事申上進立御事申上進
代及子附申上進立御事申上進
御事申上進立御事申上進
御事申上進立御事申上進
御事申上進立御事申上進

成
青

去上十下洋儀仕中昔松中河内宮
同より方江宮内水後少島舟中上中
此中一應洋儀の事一平上宮
信成の中

世成河内宮中上中昔松中河内宮
修習心の中昔松中河内宮
早成を教由生あふ〜
流〜
左方より新〜
中〜
山〜
方〜

格別教令も有るに及ばず先年
洋紙の中にも如く致す期月
有るに俾て以て賜ふ得るもの建
同様に文を致す通に俾て
并利有るに及ばず是と云ふも
俾て俾て俾て俾て俾て俾て
難仕るに及ばず俾て俾て俾て
通に俾て俾て俾て俾て俾て

本

本

本

書函洋紙仕中上通紙

河内書信俾て俾て俾て

信書水紙俾て

本

本

本

